成人向け
人たらし

前書き

※注意

この本には人によっては気分を害する内容が含まれています。

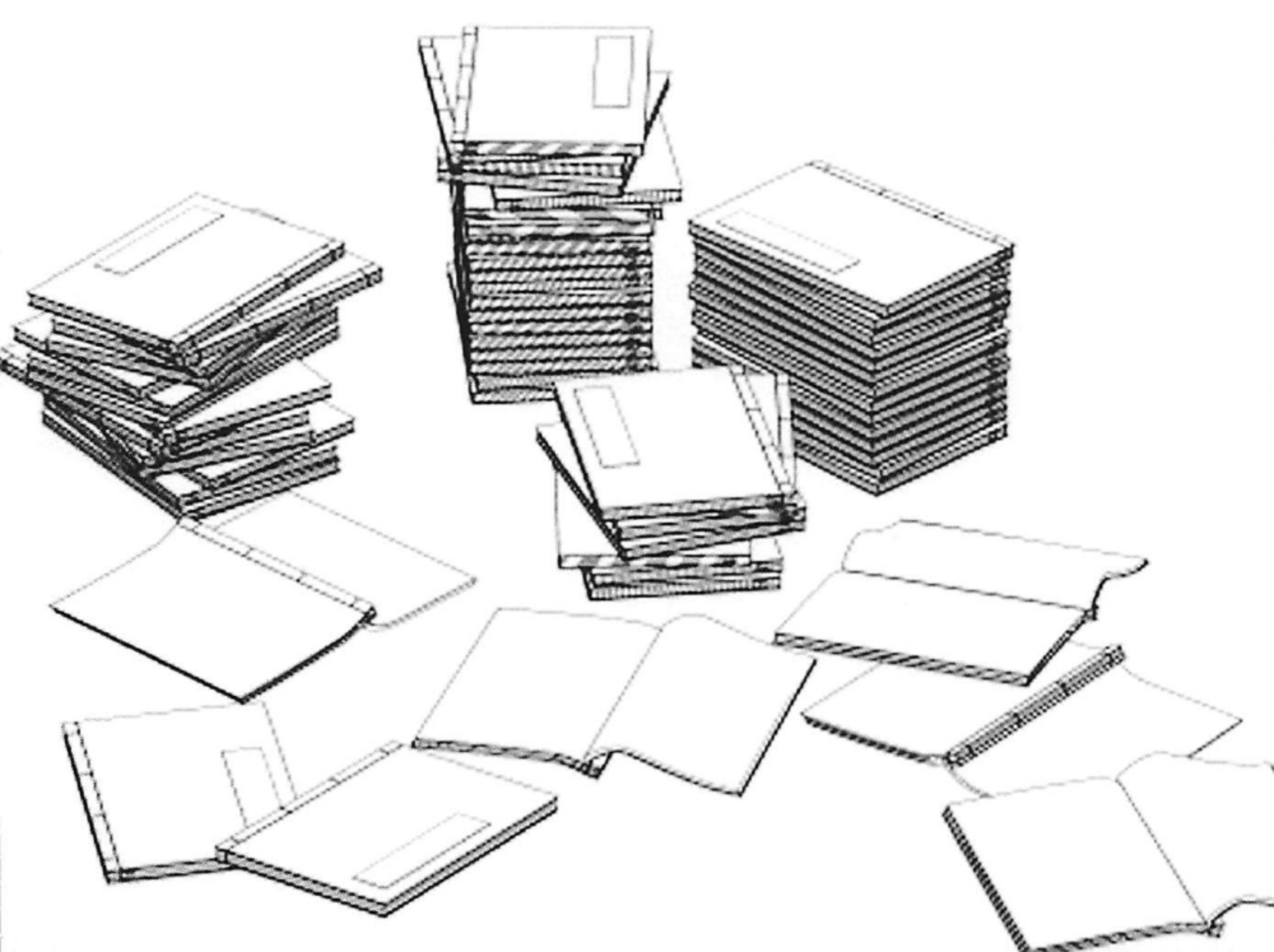
たとえ気分が悪くなったりしたとしても当方では一切の責任を負いかねます。

初めましての方は初めましてアイモです。

嫁でありながらここまで全面的に描くのは初めてと思われるヒデヨシ本でございます。

私がヒデヨシに弄ばれたいという一心で描いた作品となります。

ちょっと特殊なプレイかと思われますが、楽しんでいただければ幸いです。



ねぇねぇ臭い？

今日もい～っぱい汗かいちゃったから汗の臭いすごいでしょ

でもちょっとがっかりだな～

まさかお兄ちゃんがこんな変態さんだったなんて・・・

こ～んな変態さんほっといたら他の娘に迷惑だからしっかり躾けとかないとね♪

ほらほらしっかりご主人様の臭い覚えて！

フゥー・・・

フゥ～・・・

ん？　流石にそろそろ息がもたないかな？

そ～だな～　じゃあちょっとだけ息吸わせてあげるね♪

3秒後にお尻上げるからしっかり呼吸するんだよ

ん～～～ッ!!

い～ち

に～い～

さん♥

ぶるるる

ゲホッ
ゴホッ！

あっははは！
ごめんごめん！

さすがに嫌だったかな？
ゴメンネ♪

ん？

おちんちんこんなに
硬くしちゃってるってことは

別に嫌ってわけじゃない
ってことだよね？

ムニュ
ムニュ

ふ～ん

変態
おにい～ちゃん♥

ふふ…
気持ちいい？

おちんちん
ぴくぴくしてるよぉ？

喉かわいちゃったの？
しょうがないなー

ほらお口あーんして

おいしい？
よく味わって飲むんだよ

唾液飲みながら手コキ
されるのすっごくきもちいでしょ！

あっ♡
もう精子でちゃいそう？

おちんちんぴくぴくって
脈うってるよ♡

すっご～い！
精子がぴゅーって
すっごい勢いで出て行ったね！
ねぇねぇ！
もう一回！
もう一回精子だしてよ！
ねぇねぇー
あっ！
こら！
暴れないで！

んっもー！

おとなしく…

しなさい！

むぐぅ…！
むぅ～！

ぎゅっ

ほらほら！
あきらめてもう一回
射しちゃいなよ

ぷしゅぁぁ

うひゃ！

あわわ…
さっきとは違う…
おしっこみたいなのが吹き出ちゃった！

ぐぬぬぁ…

あはは！
おちんちんおっもしろーい！

ありゃ？
おちんちん元気
なくなちゃってる…

ねぇねぇ～
もっと遊ぼうよ～

ムニュ

根性だして！
おちんちん元気よく
勃たせてよ！

ギュ

んも～

しょうがないな～

元気がでる
お薬飲ませてあげる♪

ドッ

こぼしちゃダメだよ～

ほらほら
好き嫌いしない！

良薬は口に苦し！
しっかり全部飲むんだよ！

する

じょぼぼぼぼ…

ぐぽぽぽぽ

おお～
また元気になったぁ♥

ちゃんとお薬飲めたね！
えらいえらい！

ズッ

よーし！
今度はアタシを
楽しませてね♪

簡単に逝っちゃったら
お仕置きだよ♪

ぐいっ

一気に奥のほうに・・・

ずぶっ・・・っと

ぐぃ

ひやっ！

はぁ・・・
お・・・おっきぃ・・・

ん・・もぉ・・・
さっきあんなに出しだのに・・・

おしっこ飲まされて
こんなに硬くしちゃうなんて・・・

ほ・・・ほんっとうに・・・
変態さんななんだから！

じゅぽ♡

じゅぽ♡

ふえぇ！

いくらなんでも
はやすぎるよぉ～

ほ～ら・・・
がんばって！

ちょ・・・
ちょっとちょっと！

私まだ全然
満足してないんだから

あっ・・・
はぁ・・・

え・・・えへへ・・・
まだ頑張れそうだね♪

おにいちゃんの
せーえきがからっぽになるまで
搾り取っちゃうんだから♥

ジョボボボボ

はっ

はぁ♡

ビクッ

びゅーびゅー♡

ぐったり

はぁ…はぁ…

も…もう限界？

う～ん…ちょっと物足りないけどしょうがないな

まぁ早漏おにいちゃんにしてはがんばったほうだね♪

ほらがんばったご褒美
あ・げ・る♥
ぐぽぐぽ
ぶるぶる

ぴくっ

んssssっ

お風呂入って寝ちゃおうかな

お兄ちゃん寝ちゃったし

じゃあねお兄ちゃんまた明日遊ぼうね♪

それまでに部屋綺麗にしててね～

ぱた

はぁ・・・あっ！
そ・・そんな乱暴に・・・あっ！
はぁ♡
はぁ♡
さ・・・触らないでくだ・・・
ひゃん！
ビクッ
ビクッ
ビクビクッ
ムニュ
ムニュ

ドキ ドキ

ちゅっ♥

ふふ・・・どうです？
きもちいいですかぁ～

射精封じられてからの
乳首舐めと手コキで
何回メスイキしちゃいましたか？

ビク

ミコ

ミコ

ビク

ビク

ビク

ん…ふぅ…
ふふ…さすがですね
いかがです？
最高ですよね？
どぴゅ
どぴゅ
どぴゅ
おしっこ飲みながらの射精…
このまま潮まで吹かせちゃいますね～
ぴゅ
ぴゅ
ぴゅ…

「はぁ、はぁ！」

リキュウに勧められた茶屋から走って城へ帰ってきたヒデヨシ。
その理由はごくごくシンプルなものだった。
リキュウは茶聖と呼ばれるほどお茶には詳しい人物。
もちろん、彼女の紹介する茶屋となればそれほどまでにおいしい店で間違いない。

「おいしい！こんなの初めて飲んだよ！さすがノリキュウさん！！！」

「気に入っていただけてうれしいです」

ヒデヨシもそのお茶を気に入り、茶菓子と共に大量注文、お腹がたぷたぷになるまでお茶を飲んできたと言うわけだ。
しかし、その茶屋は城からかなりの距離があり、帰りの途中で尿意を催してしまったのだ。

（の、飲みすぎちゃったかな？）

しかもお茶の利尿作用が手伝い、気がつけばかなりぎりぎりの状態まで我慢をすることに。
何とか城へ戻ったはいいがノブナガの家臣であるヒデヨシの仕える厠まではまだ遠い。
以前、兵士用の厠を使ったことがノブナガにばれた時には「兵士と家臣を同じ厠に行かせていることがお嬢にばれたらなんと言われるか！」と特大の雷を落とされたため、城の入り口から近い厠へは行くことができない。

額や頬を冷や汗が流れ、限界の近づいた両足は震え、内股気味になりながらできる限りの歩幅を稼ぐ。

「っ、はぁ、ふぅ……あ、うぅ……んっ……はぅ……」

織田家一の家臣である自分がこんなところで力尽きるわけには。
わかっているのだが、尿意の誘惑に負けそうにもなる。
身体からあふれる汗は、まるで膀胱に貯めることができなくなった水分のようにあふれ出る。
衣服はもちろん、パンツも身体にくっついて少し気持ち悪い。
もう、これで少し濡れるくらい変わらないんじゃないか。
なんて思っていると。

じわっ……。

「ひっ、ま、まだ、だめ！！！」

一瞬の油断から開きそうになる水門をあわてて両手で押さえ、硬く足を閉じる。
プルプルと震え上がり、出始めそうになった黄色い濁流を必死に塞き止める。
まだ、ほんの少し漏れ出しただけだったため、何とか完全な決壊は止めることができたようだが、パンツの気持ち悪さが少し悪化してしまう。
目の前に見える家臣用の厠。　あそこまでの我慢。
ヒデヨシは最後の力を振り絞り、さっき以上に狭くなった歩幅で厠へ向かう。片手をスカートの中にもぐりこませ、パンツが見えるのも気にせずに、一歩、また一歩と永遠とも思える距離を歩く。

「あと、ちょっと、あと、すこし……」
言い聞かせるようにそう言う。
そして、ヒデヨシは亀のような速度で、ようやく厠へとたどり着く。
（間に合った！！！）
そう思い、厠の扉に股間を押さえていないほうの手をかけるヒデヨシ。
けれど。
「え、あかな……な、なんで！？」
片手で必死に扉を開けようとするが、やはり開かない。
そうなると、この中に人がいるのだろう。
家臣専用で、しかも女性用の厠であるこの場所を使っているとすれば、
思い当たる人物は一人しかいない。
「と、トッシー！？　入ってるんだよね、早く出て！！！　お願い、
あたし、もう限界なの！！！！！」
「ひ、ヒデヨシ！？　んな、急に言われたって、ちょっと待てって！」
中から聞こえたトシイエの声。
しかし、ヒデヨシはもう限界だった。
いいや、もうすでに限界はとっくに超えていた。
じわっ……。
「！！！」
扉を掴んでいた手を股間を押さえていた手に重ねるが、もう無駄だった。
じわじわっ……。
先ほどと違い、下着を直接抑えているためよくわかる。
漏れ出している。
それも、大量に。
生暖かいおしっこの感覚がヒデヨシの羞恥心を掻き立てる。
「あっ、あっあっ、あああっ！！！」
じわじわと下着を侵略するおしっこ。
白かった下着が少しずつ薄くすけ、そしてとうとうそれでも吸収しきれ
なくなったおしっこが太ももを伝い始める。
ヒデヨシは股間を押さえる手を離し、厠の扉をがたがたと揺らす。
「と、とっし、はやっ、あぅ、はやくぅ！！！」
「ま、待てって！」
ぱたぱたっ。
勢いを増し始めたおしっこは太ももから流れるだけでは足りずとうとう
パンツから直接地面に落ち、音を立て始める。
「も、もう、もう……がまん、できない……よ……」

そして、とうとう。
織田家一の家臣の精神力は、尿意に屈してしまう。
ぷしゃあああああ……！
ぱしゃぱしゃっ！
「あ、あああぁ……」
壊れた水門から勢いよくもれだしたおしっこは一度パンツにぶつかり、いくつもの道筋に別れ拡散するように地面へ落ちていく。
パンツはもちろん、太ももも、スカートも、靴下も靴も、おしっこで濡れていく。
地面に落ちたおしっこはぱしゃぱしゃと水音を立てながら地面を濡らし、水溜りを広げていく。
止めなければ、と言う考えは尿意からの開放感と無情に広がっていく水音にかき消される。
情けない声を漏らしながら涙目でプルプル震え上がる。
おしっこは勢いよく出たり、たまに威力が弱まったりをしながら淡々と流れ落ちる。
その勢いのせいでスカートは前側後ろ側両方に大きなしみができ、ヒデヨシのおもらしの跡を大きく残す。
スカートからは水滴が、パンツからはいくつかの滝が、そして太ももからはパンツ殻の滝の数以上に多い何本もの水流が。
とにかく大量のおしっこがヒデヨシを中心に水溜りとなり広がっていった。
「わ、わりい、またせ……あ……」
「……あ」
ようやく厠から出てきたトシイエに気がつき、ようやく我に返るヒデヨシ。
しかし、もう、言い訳も何もできない状況だ。
「ち、ちが、こ、これは、あっ、あぅ……！」
しかし、おしっこは止まるわけもなく。
「み、見ないでよ！　トッシーが、入ってなきゃ、間に合ったのに、あっ……んっ……止まらない、よお……」
結局おしっこが止まるまでさらに数十秒かかってしまう。
そして、ようやく……。
ぱたぱた……ぶるる……。
大きく震え上がるヒデヨシ。
真っ赤になった彼女はおしっこが止まり、大きく震え上がるとその場、出来上がったばかりの大きな水溜りの上に座り込んで泣き出してしまう。
原因となってしまったトシイエはかける言葉も見つからないままとにかく一緒に風呂へ入ろうと無理やりヒデヨシを引っ張っていくのであった。
おしまい。

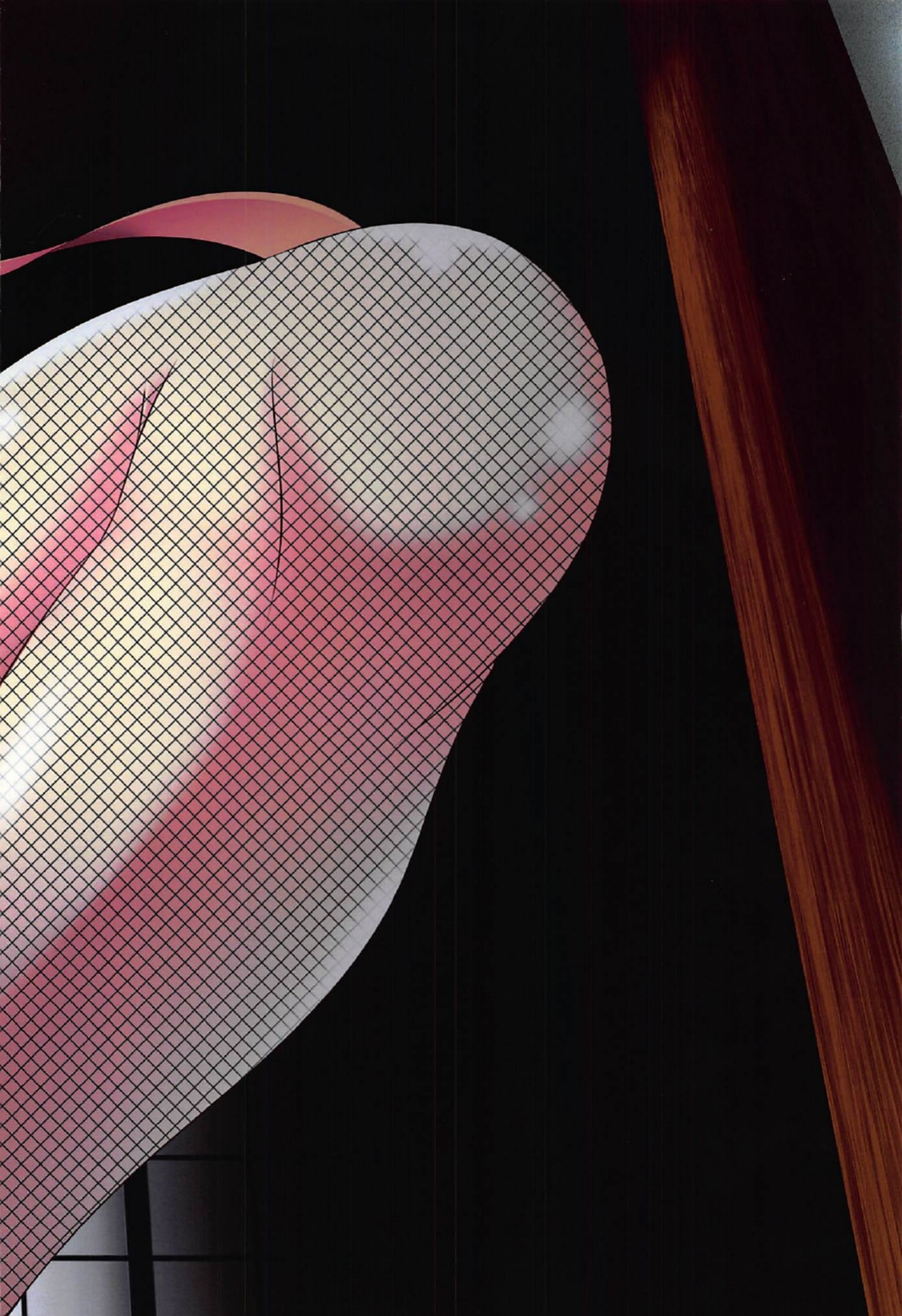
あとがき

ここまで読んでいただきありがとうございます。結構ドきつい内容だったかと思いますが、私がヒデヨシにされてみたいな～というか玩具にされたいという物を描いて見ました。
尻フェチをこじらせた結果がこれだよ！ってことでいろんなキャラでこんなマニアックな作品が今後も描ければいいなと思います。
次回はヨシモト本あたりが出るんじゃないかなとか思っています。
ジャンルとしては真逆のものになりますねー
三角木馬にのっけたりお尻叩いたり
いろいろやっちゃいたいと思います。
ではまたお会いできることを祈っています。

追記
ヒデヨシは心優しく、恥かしがり屋で、
人前でおしっこや脱糞などの行為は
決して行うことの無い天使です。

まぁ旦那の頼みとあればきっと・・・

次回作の表紙
珍しく自分でもいい出来と賞賛しています。

奥付

タイトル「人たらし」
発効日:8月11日
発行:虎猫亭/アイモ
漫画:アイモ
小説:クロ
連絡先:aimo1214@gold.megaegg.ne,jp
pixiv ID:http://pixiv.me/aimo1214
印刷:日光企画
■十八歳未満の閲覧・所持は法律で禁止されております。
■画像の転載、web上でのデータ共有・無断のデータ販売・複製、同人誌UPブログ等への転載はお止めください。